

風水害対策

大雨情報をキャッチ！

こんなときの
わが家の安全対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

レベル5 大雨特別警報

大雨により重大な災害の起こるおそれが著しく大きいと予想される場合に発表する警報

レベル4 大雨危険警報

大雨により重大な災害の起こるおそれが大きいと予想される場合に発表する警報

レベル3 大雨警報

大雨により重大な災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表する警報

レベル2 大雨注意報

大雨により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報

気象防災速報 (記録的短時間大雨)

警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析したことを発表する情報

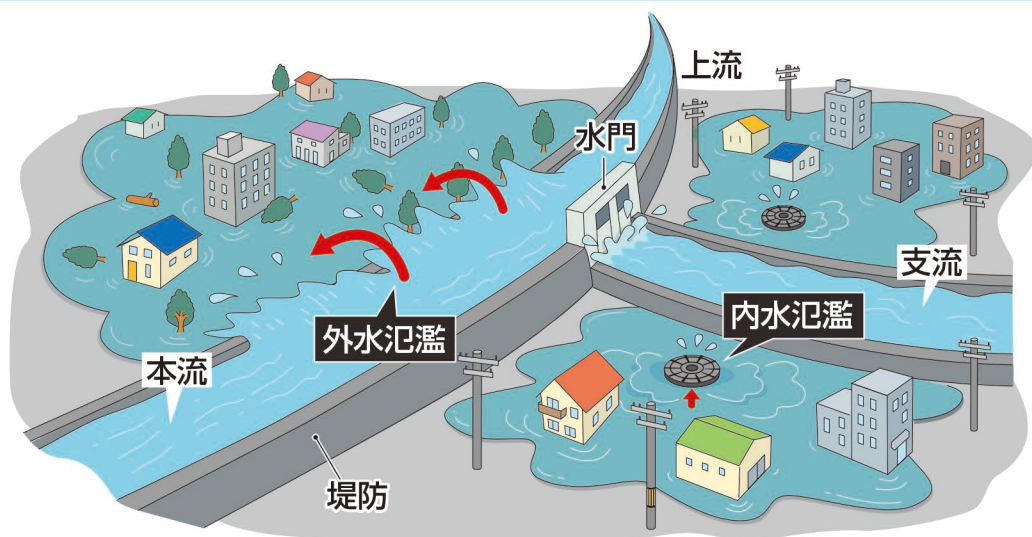
気象防災速報 (線状降水帯発生)

大雨による災害発生危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報

氾濫の種類

外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。



内水氾濫

下水道・支川等の雨水排水能力を上回り浸水する。あるいは河川水位の上昇により、下水道・支川等から河川へ放流できず浸水する。

避難の ポイント 危険な場所

！ 浸水が始まる前

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となります。浸水してから自宅外への避難は危険です。危険を感じたら自主的に避難を開始しましょう。



！ 状況に応じた避難

周囲の状況が危険で避難所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難しましょう。移動途中であっても、危険を感じたら近隣の建物へ行きましょう。



！ 川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かず、やむを得ない場合は複数人で行動しましょう。避難の途中でも増水した川の近くを通るのは避けましょう。



！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定されます。また、地上が冠水すると一気に水が流れこんでくる場合もあり、脱出が困難となります。



！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適しています。また、氾濫水はにごっているため、水面下が確認できません。長い棒などを杖代わりにし、側溝やマンホール、障害物に注意しましょう。



風水害対策

雨の強さと降り方

やや強い雨 ザーザーと降る

地面からの跳ね返りで足元がぬれる。



10mm以上～20mm未満

強い雨 どしゃ降り

傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。



20mm以上～30mm未満

激しい雨 バケツをひっくり返したように降る

道路が川のようになる。高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。



30mm以上～50mm未満

非常に激しい雨 滝のようにゴーゴーと降り続く

寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。



50mm以上～80mm未満

猛烈な雨 息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じる

傘は全く役に立たなくなる。車の運転は危険。



80mm以上～

風の強さと吹き方

やや強い風

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。樹木全体や電線が揺れ始める。



平均風速
10m/s以上～15m/s未満

強い風

風に向かって歩けない。転倒する人もでる。雨戸やシャッターが揺れる。



平均風速
15m/s以上～20m/s未満

非常に強い風

何かにつかまっていないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。



平均風速
20m/s以上～30m/s未満

猛烈な風

屋外での行動はきわめて危険。走行中のトラックが横転する。電柱や街灯が倒れるものがある。ブロック塀が倒壊するものがある。



平均風速
30m/s以上

台風について

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

■ 台風の大きさと強さ ■

台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)を基に台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

■ 大きさの階級分け ■

大きさ	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

■ 強さの階級分け ■

強さ	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

■ 台風への備え ■

家屋周辺

- 商店などでは看板のぐらつきに注意
- 庭の鉢植えに注意。室内に入れておく
- 家の周りを一周し、飛ばされそうなものはすべて室内に取り込むか固定するなどの飛散防止をする

屋根

- 瓦のひび、われ、ずれ、はがれはないか
- トタンはめくれやはがれがないか

雨どい

- 雨どいに落ち葉や砂などが詰まっているか。つぎめのはずれや塗料のはがれ、腐りはないか

テレビアンテナ

- 錆びたりゆるんだりしていないか。不安定なアンテナは固定する

ベランダ

- 鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高いものは室内へ

プロパンガス

- 固定されているか

ブロック塀・板壁

- ブロック塀にひびわれや破損箇所はないか
- 板壁にぐらつきや腐りはないか

窓ガラス

- ひびわれ、窓枠のガタツキはないか。また強風による飛来物などに備えて、窓に飛散防止フィルムを貼る。外側から板でふさぐなどの処置をする